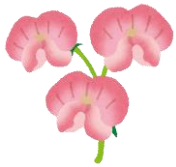
総合教育臨床センターだより

2021年1月 第5号



総合教育臨床センター主催　シンポジウム
「新型コロナが子どもたちへ与えた影響」報告

2020年11月7日(土)10時から12時まで、亀口公一氏（NPO法人アジール舎運営　アジール心理発達相談室)、橋本鈴世氏（京都大学博士後期課程在学中　現在イタリア在住)、小山和幸氏・法橋秀明氏（京都府教育庁指導部学校教育課　指導主事）をお迎えし、新型コロナが子どもたちへ与えた心理的影響について、子どもたちへの理解と関わりについて考えるシンポジウムをオンライン開催しました。テーマについて、国内外で子どもたちに関わる３つの立場から、新型コロナ前後の子どもたちの様子や変化についてお話いただきました。

亀口氏からは、発達障害の子どもたちと放課後等デイサービスについてお話しいただきました。放課後等デイサービスは、発達障害の子どもたちの居場所というよりも「避難場所」であり、発達障害の子どもたちの中で社会的に避難が必要な子どもたちはすでに避難しているため、放課後等デイサービスという視点からは今回の新型コロナの影響は意外と少なかったようです。事例紹介では、ステイホームによって家族関係や子どものストレス反応の改善がみられたことをお話いただきました。このコロナ禍は「家族の再生」のチャンスであるということを学びました。さらに、マスクをしたまま子どもにミルク（こころの栄養）をあげることは、「他者（親）の意図（素顔)」を読み取るためのコミュニケーション力が育たない危険性があるということも教えていただきました。

橋本氏からは、新型コロナがイタリアの子どもたちに与えた影響についてお話しいただきました。イタリアでは休校措置がとられていたが、現在は高校・大学ではオンライン授業に、幼稚園・小学校・中学校では子どもだけでの留守番は児童虐待とみなされることから、対面授業を継続していることを教えていただきました。その際、障害のある生徒に対しては、マスクの着用義務が緩和されたり高校でも通学を許可されたりと、障害への配慮が大切にされていることを学びました。子どもたちは友達と会えないことや学校に行けないことが嫌であり、集中力の低下を感じて困っていること、保護者は子どもからいつコロナが終わるのかを何度か聞かれたり、行動を制限されることに子どもが不満を感じながらも現状を受け入れて対応したりしている様子を感じているようです。また教員からは、先生の表情がわからないために子どもたちが先生のマスクを取ろうとする様子から、マスクをつけて指導することに心配の声も挙がっているということを教えていただきました。

小山氏・法橋氏からは、学校現場における子どもたちへの影響とスクールカウンセラーによる支援についてお話しいただきました。1学期の子どもたちの様子について、登校できる喜びを感じている姿がある一方で、入学したばかりの小学1年生や中学1年生には不安感がみられたようでした。2学期からは子どもの本来の姿がみられるようになった一方で、不登校の数と教育相談が増加しているという実情が語られました。学校として「気づき」「関わり」「つながり」をキーワードに、スクールカウンセラーを含めた「チーム学校」として取り組むことが大切であると教えていただきました。また、これからは「学校の当たり前」が当たり前ではなくなり、コロナ禍で「変えざるを得ない」という事態になったが、「変えてみると意外と良かった」ということもあることから、コロナ禍は学校が変わるチャンスでもあるとお話しいただき、とても印象に残りました。

心理教育相談室　閉室のお知らせ

総合教育臨床センター長　内田利広

心理教育相談室は平成 12 年度から、地域の子ども・保護者・学校（附属学校含む）などへの教育臨床的支援の一環として相談活動を行ってまいりました。
しかし、本学における臨床心理士養成の停止に伴い、令和 2 年 12 月 25 日に新規受付を終了し、令和 3 年 3 月末日をもちまして閉室する運びとなりました。地域のみなさまや関係者のみなさまの長年にわたるご厚情に心から感謝申し上げます。

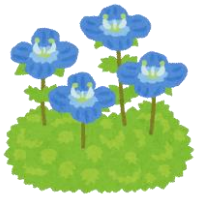
また今年度は新型コロナウィルス感染症拡大に伴い、安全面の対策として事前の検温やマスク着用、アルコール消毒、窓を開けた換気など、さまざまな対策を実施してきました。当相談室をご利用いただくみなさまには、こうした対策にご理解とご協力をいただきました。心から感謝申し上げます。さらに本学における臨時の休講措置に伴い、当相談室につきましても臨時閉室となることが多く、ご心配とご迷惑をおかけいたしました。閉室となる 3 月末日まで残り少ない期間となりましたが、新型コロナウィルス感染症予防対策を引き続き徹底して行い、最後まで安心して相談活動が行えるよう努めてまいります。

心理教育相談室について

平成 31･令和元年度および 2 年度（12 月まで）相談件数報告

＜相談件数＞

	平成 31・令和元年度	2 年度（12 月まで）
相談件数	63	46
延べ相談件数	594	313



＜平成 31・令和元年度　相談内容＞

	不登校	いじめ	非行 しつけ	学業 不振	進路 適性	発達の 遅れ	対人 関係	行動 性格 情緒	その他	計
相談件数	7	1	1	0	3	1	16	20	14	63
延べ件数	41	3	2	0	75	7	165	200	101	594

心理教育相談室（令和 3 年 3 月末日まで）※新規受付は終了しております
075-644-8824（月曜～金曜　午前 10 時～午後 4 時）

教育臨床心理実践拠点・スタッフ

兼任教員（センター長）教授　内田利広　　兼任教員　教授　森孝宏　准教授　西村佐彩子
非常勤カウンセラー　荒井久美子（月曜）　西山智栄子（金曜）
相談補佐員　井口遼大（月曜）　西里尚華（火曜）　山下理佳（水・金曜）　安部美里（木曜）

特別支援教育臨床実践拠点の取り組みについて

1、障がい学生支援について

①障がい学生支援の必要性

- 特別支援教育が始まり、早期発見・早期対応が進んだことによって、高校までに発達障害の診断を受け、すでに本人や家族が障害を認識している方々が年々増えてはきています。
- しかしその一方で、本人や家族が発達障害の特性に気づかないまま入学して学生生活を送っている方もいます。
- そうした場合、大学の教員などが、さまざまな悩みについての相談を受けたりしています。
- 学業不振、実験・実習・グループワークの困難な状況、実地教育の難しさなどに直面する中で、より良い大学生活を送ること、そして将来の社会生活に向けた取り組みとしても、発達的な課題があるのではと「気づく」ことが大切になります。
- 近年、多くの大学で「障害（障がい）学生支援室」や「総合学生支援室」などの名称で、視覚障害、聴覚障害、肢体不自由等に加え、発達障害、精神障害の学生にする支援が本格的に行われてきています。

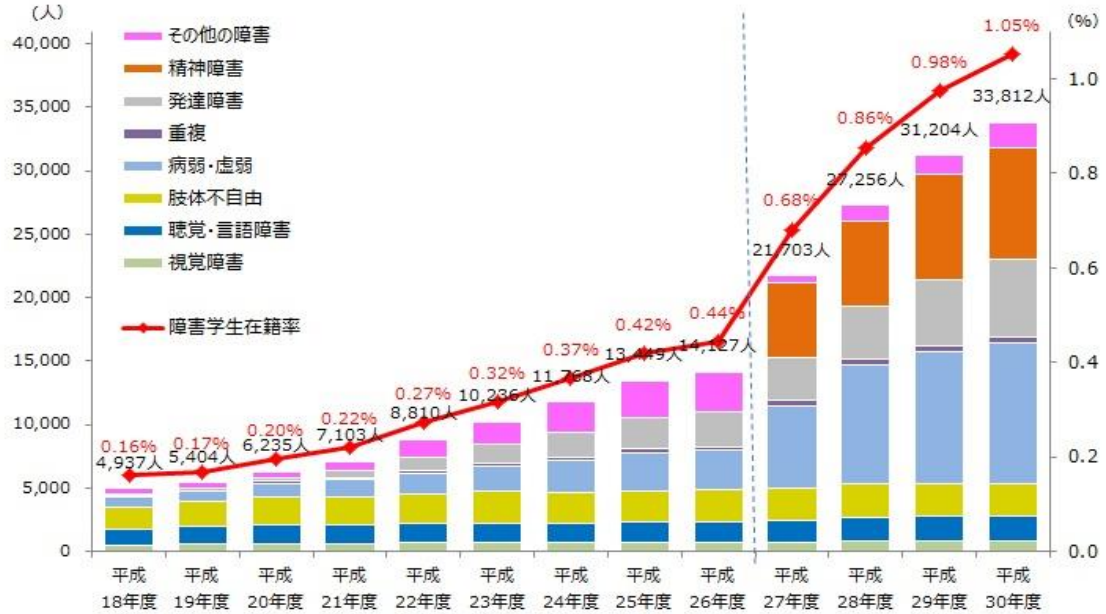


図１　障害のある学生の修学支援に関する実態調査（日本学生支援機構、2018）

②気づきのポイント

- □ 時間割が一人では組めずに、履修登録ができない。
- □ レポートの提出日や先生との面接など、大事な約束を忘れたり、遅れてきたりする。
- □ スケジュール管理ができずに、計画的に学習が進められない。
- □ 実験や実習の手順がわからなかったり、器具の操作がうまくできなかったりする。
- □ 整理整頓ができずに、忘れ物が多い。
- □ ノートを取るのに時間がかかる。手書きでノートを取るのが難しい。
- □ ゼミや授業、サークルで、教員や学生仲間とのコミュニケーションがうまくいかない。あるいは孤立している様子が見られる。
- □ 大学に来ることが難しい。欠席が多い。
- □ 予測できないことがあると対応できず、教室を出ていってしまったり声をあげたりなどパニック様の状態になることがある。
- □ 教育実習、実地教育に強い不安を感じたり、途中で行けなくなったりする。など

2. 2020 年度　第 2 回特別支援教育セミナー(Web 配信)開催について

12 月 12 日（土）13：00～14：30「子どものゲーム症の理解と対応」と題して北里大学医学部准教授の井上勝夫先生にご講義をいただきました。「ゲーム症」は、世界保健機関が 28 年ぶりに国際疾病分類を改した ICD-11 で初めて示された診断名です。

井上先生には「ゲーム症」の診断基準や、嗜癖（しへき：特定の物質や行動や関係性に心を奪われのめりこみ、制御できなくなること）という概念など興味深い内容でした。また、「子どものゲーム症」においては、「発達段階への注目」や、「生活環境（養育環境）への注目」、「子どもならではの精神障害も念頭におく」などの必要があることも話されました。

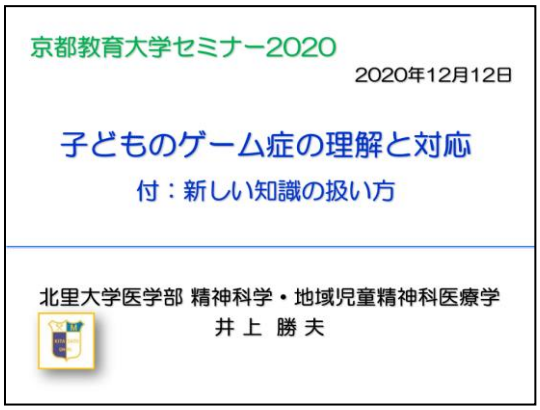


図２　井上先生の資料より

当日の参加者は 81 名を数え、関心の高さがうかがえました。参加者からは「WEB であっても、講師の先生の人柄の良さが伝わってきました。とても分かりやすいお話でした。ゲーム症でなくても、一人一人の背景に鑑みて支援できることを考えていきたいと改めて思いました。ありがとうございました」や「貴重なお話をありがとうございました。オンラインでのセミナーをやっているというのを今回初めて知ったのですが、手軽にお話を聞くことができ、大変良かったです。ゲーム障害は、近年かなり深刻な問題になっているものの、まだ対処や理解が追いついていない分野であり、詳しくお話を聞けたのは非常に良い機会になりました」などの声が寄せられていました。

3. 発達相談について(2020 年度)

表１　2020 年度相談件数　(2020 年 4 月　～　12 月)　　**件数**

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	計
自閉スペクトラム症	0	0	0	3	0	2	1	2	0	8
知的障害	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ＡＤＨＤ	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
ＬＤ	0	0	0	1	0	0	0	1	0	2
未診断	3	1	1	5	4	0	0	3	1	18
その他の診断	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
計	3	1	1	9	5	2	1	6	2	30

4. 発達相談のお申込み方法

子どもの発達・教育相談を行っています。あらかじめ電話でお申込みください。

電話番号：075-644-8354

（月曜～金曜午前 10 時～午後 3 時　＊午後 0 時 30 分～1 時 15 分は休憩）

コロナウィルスの流行状況により、相談活動を停止することがあります。

5. 特別支援教育実践拠点・スタッフ

専任教員：教授：相澤雅文

兼任教員：教授：藤岡秀樹、准教授：田爪宏二（以上　教育学科）、

准教授：牛山道雄、佐藤美幸、丸山啓史（以上　発達障害学科）

相談補佐員：松中修子（月・木）、福井めぐみ（火・水・金）